

「道徳教育」を学校づくりの柱として

開校2年目を迎えた八頭中学校。その学校づくりの大きな柱の1つが道徳教育です。テーマは「心を磨く」。道徳の時間だけでなく、全教科、全領域（学活・総合・行事等）を通して生徒と教員が共に学び合い豊かな心を育んでいきたいと考えています。ぜひご家庭でも話題として取り上げていただき、学校での学びをより深めていただければ幸いです。

全校道徳①4月26日（火）1・2限



本年度第1回目の全校道徳は、渡邊二之校長先生、浦林要仁先生にお話をいただきました。どちらのお話も、八頭中生として常に心に留めておきたい大切な内容でした。

校長先生は「心を働かせて学ぶ」ということについて話されました。スポーツ選手の逸話や「心のスイッチ」という詩はとても印象深く心に残りました。

浦林先生は、「全ての生徒が、八頭中学校で心地よく生活し、安心して学習に取り込めるようにするために」というテーマで話されました。その中で、7・8・9組は、生徒の苦手を克服・改善しながら一人ひとりの個性を伸ばしていくためのクラスであることも伝えられました。

心のスイッチ

東井 義雄

人間の目はふしぎな目
見ようという心がなかったら
見えていても見えない

人間の耳はふしぎな耳
聞こうという心がなかったら
聞いていても聞こえない

頭もそうだ
はじめからよい頭悪い頭の
区別があるのではないようだ

「よし やるぞ！」

と心のスイッチが入ると
頭もすばらしいはたらきを
しはじめる

心のスイッチが
人間をつまらなくもし
すばらしくもしていく

電灯のスイッチが
家の中を明るくもし
暗くもするように



～生徒感想より～

★校長先生の「心のスイッチ」のお話を聞いて、私は「よし、やるぞ!」という気持ちを常に持ちたいと思いました。私はめんどろなことや、自分が納得していないことをするときに、いつもやる気を見せずに過ごしています。めんどろなことにやる気を見せても、むだな気がするし、納得していないのにやる気を見せると、何か負けた気がするからです。でも、むだとか勝ち負けとかではなく、やる気を見せることが大切なのかなと思いました。すぐにはできないとは思いますが、徐々にできるようになりたいです。(1年女子)

★浦林先生のお話から、生徒は一人一人違うところがあるので、八頭中ではその人に合った授業ができるような環境が考えられていることが分かりました。僕は心配なことがあれば、友達や先生に相談したいと思います。そうしてクラスの友達全員が一人も欠けることなく、互いに高め合えるクラスにしたいと思います。そのために、一人ぼっちになっている人をなくしたり、男女関係なく仲良くしたりしたいと思います。(1年男子)

★「自分を磨くこと」それは「個性が活きること」につながるのではないだろうか。絵を描く人は描いたぶんだけ上手になり、走る人は走った分だけ速くなる。楽器を吹く人はたくさん吹けば吹くほど上達する。そうやって自分自身を成長させているのは、他人ではない。自分なのだ。自分自らが判断して楽しんだり悲しんだりする。すると個性が育つ。自分を磨くこと、それは個性を伸ばし成長することだと思う。(2年女子)

★浦林先生は特別支援学級について話をしてくださいました。なぜこの学級があるのか、どう接していくのがよいのか…と、これまであまり深く考えてこなかったことでした。生徒一人ひとりの能力には個人差があり、決して同じではない。ある人にとっては普通にできることも、別の人にとっては難しいこともある。クラスを分けるのはその人の個性を活かすためなのです。しかし、浦林先生が一番言いたかったことは「接する」ということ、つまり「調和」だと思います。人の強いところ、弱いところを認め、励まし合いながら生活することが大切だということだと思います。(2年男子)

★校長先生がおっしゃっていた舞ノ海さんの話は僕も知っていた。頭にシリコンを入れると、とても痛いそうだ。血管がたくさん巡っているからだ。その痛みを耐えながら検査を受けたそうだ。この話から僕は「覚悟」の大切さを知った。夢を叶えるためなら、多少の犠牲もいとわない覚悟だ。今の僕にはまだはっきりとした夢はない。けれど一度決めたら、たゆまぬ努力を重ねていきたいと思う。(3年男子)

★学校は、これまで自分が学んできたことを生かしながら、さらに力をつけていく所だと分かりました。一人ひとりの持つ力は違っていますが、その力を全て自分のためだけにつかわず、周りの人たちのためにつかっていくことが大切なのだと思います。私は自分の理想とする学校生活を送るために、まず自分自身を振り返り、周囲の人を理解する努力を続けていこうと思います。(3年女子)

